

ものれーる

VOL.13 2007.8発行

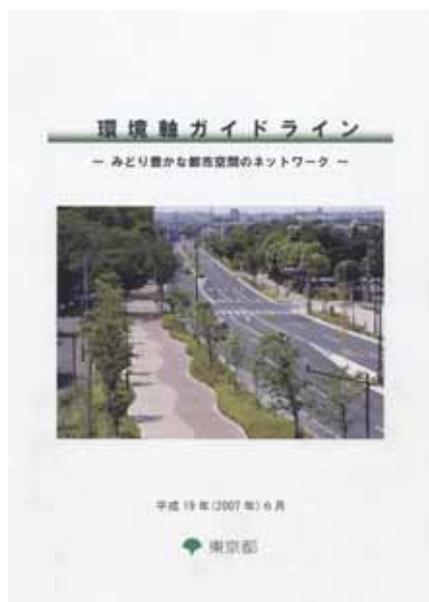


武蔵村山市 都市整備部
まちづくり課
042-565-1111(代表)

東京都が「環境軸ガイドライン」を策定

～ みどり豊かな都市空間のネットワーク形成へ ～

新青梅街道整備の際の指針に！



東京都では、今年6月に発表した「『緑の東京10年プロジェクト』基本方針」において、「厚みと広がりをもった緑の満ちる空間が連続する『環境軸』の形成」を改めて示したところです。

また、この「環境軸」の形成を図るため、都市施設の整備、まちづくりに関する計画や事業などを行う際に指針となる、「環境軸ガイドライン」を策定しました。

【詳細については下記HPをご覧ください】

東京都都市整備局HP]

<http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp>

1 ガイドラインの目的

環境軸ガイドラインは、「環境軸基本方針」に基づき策定したもので、都や区市町、さらには都民や民間事業者が、環境軸の形成に向けて、都市施設の整備、まちづくりに関する計画や事業などを行う際に指針となるものです。

なお、今後、実際に新青梅街道の整備を進めていく際にも具体的な目安となります。

「環境軸」

公園・緑地、道路や河川のみどりとこれらの沿線のまちづくりで生まれるみどり等を組み合わせ、都市施設のみでは成しえない厚みと広がりをもったみどりの空間の創造を目指すものです。

2 ガイドラインのポイント

1 都市施設の連携

道路と河川の連携によるみどりの連続性の確保、道路と沿道の公園の一体的整備による厚みのあるみどりの創造などを行い、環境軸の「つながり」と「広がり」を効果的に実現します。

2 民間のみどりを誘導

道路の街路樹など、都市施設のみどりの充実のみならず、沿道の民間事業者が行うまちづくりの中でもみどりを創出し、環境軸の「広がり」を誘導していきます。



3 環境軸形成に向けた新たなしくみの創設

7月から本格運用を開始した「公園空地等のみどりづくり指針」により、質の高いみどりの空間を誘導していきます。また、公園空地を緑化した場合の評価など、緑化の一層の誘導促進をはかるような手法について検討を行います。

4 推進体制

現在整備中の環状第2号線など、まちづくりの熟度や都市施設の整備の見通しなどを勘案したうえで、「環境軸推進地区」を選定し、環境軸形成の着実な推進を図っていきます。

3 環境軸モデル地区紹介

街と自然をつなぐみどりのネットワーク

ロードサイドショップ街道と広大な森をつなぐみどりのネットワーク

～新青梅街道・八王子武蔵村山線・野山北公園自転車道・野山北・六道山公園・昭和記念公園・残堀川・玉川上水～

新青梅街道は、今後「環境軸推進地区」になる予定です。



新青梅街道 拡幅再整備に向けた 最近の動き

東京都

市

多摩地域における都市計画道路の整備方針
(第三次事業化計画) **優先整備路線**に選定
(平成18年4月)
優先整備路線 【今後10年間(平成
18年度~27年度)で優先的に整備すべ
き路線】

モノレール延伸に関する要望
(平成2年から13年まで)

先行拡幅の要望(平成13年11月)
先行拡幅の理由:ものれーる5号参照

多摩の地域特性を踏まえた新た
な道路整備のあり方の提案
環境軸の形成
環境軸の実現に向け、具体的に検
討を進めていく路線としている

新青梅街道の都市計画変更に関する要望
(平成14年11月、平成15年11月)

新青梅街道の都市計画決定
幅員18m 30m(平成17年3月)

環境軸基本方針
(平成18年4月)
パイロット地区検討会パイロット
地区に選定

平成17・18年度調査委託 多摩都市
モノレール関連都市計画変更調査 新
青梅街道における沿道環境形成指針策
定 環境軸形成に係る調査研究

環境軸ガイドライン
(平成19年6月)
環境軸のモデル地区に
街と自然をつなぐみどりの
ネットワーク
ロードサイドショップ街道と広大な
森をつなぐみどりのネットワーク

拡幅再整備の早期事業化に関する要望
(平成18年3月、平成19年2月)

平成19年度 調査委託
多摩都市モノレールの市内延伸を実
現するための方策調査(現在作業中)

新 青 梅 街 道 拡 幅 整 備 へ

「新青梅街道沿道環境形成指針策定に関する基礎調査」まとまる

武蔵村山市では、「新青梅街道拡幅区間の沿道環境形成指針の策定に関する調査」を平成17年度の基礎調査に引き続き平成18年度も実施し、その報告がまとまりましたので、お知らせします。



1 調査実施の目的

平成17年度：新青梅街道はモノレールの導入空間となることから、拡幅区間の道路空間や沿道空間の整備のあり方を取りまとめました。

平成18年度：平成17年度調査を踏まえ、設定したモデル地区において具体的な整備計画を検討し、環境軸に関する市民意識の把握を行い、周囲への効果的な波及を実現させるための提言を行うことで新青梅街道沿道を中心とした環境軸を形成する環境形成指針の策定につなげることを目的に実施しました。

2 調査の成果概要

環境軸として整備された新青梅街道のイメージの具体化
各方針における整備項目は次のとおりです。

基本方針

環境軸の形成に効果的な整備項目

A. みどりの空間の確保

- ・ 道路の緑化
- ・ 沿道にあるまとまったみどり（公園、生産緑地等）の保全
- ・ 建物の緑化推進
- ・ ポケットパークの形成
（新青梅街道と自転車道・ウォーキングルート等の交差点等）

B. うるおい・安らぎ感の向上

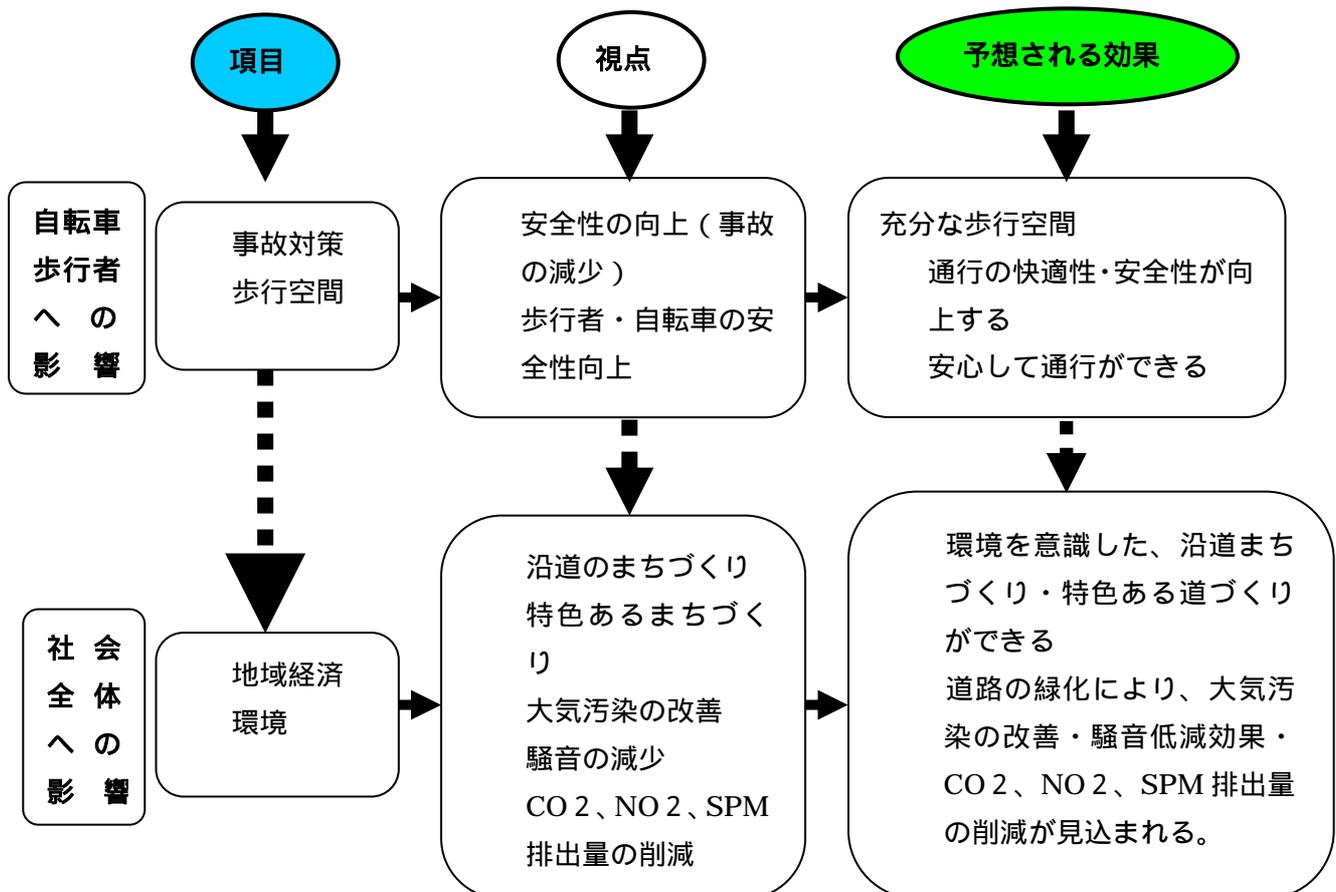
- ・ 沿道の良好な景観の創出
- ・ 十分な歩行空間の確保
- ・ 市民参加による緑の維持管理運営（地域ボランティア活動等）

C. 環境ネットワークの形成

- ・ 自転車道・ウォーキングルート等の活用による連続性の確保
- ・ 心理的な効果による地域環境の向上（花々のかおり等）

環境軸形成に伴う評価

整備効果をより効果的にする項目としては次のとおりです。



新青梅街道沿道住民へのアンケート調査の実施

アンケート概要

目的：新青梅街道の整備を進めていくに当たり、市民の皆様が日ごろ感じていることをお聞きして、それらの意見を活用し、今後の整備のあり方の参考とさせていただきますために実施しました。

対象者：新青梅街道沿道 50 m 範囲の住民、土地所有者等

アンケートでわかったこと

- ・ 利用頻度が高く、幹線道路と生活道路の機能を併せ持っている。
- ・ 公共交通が少ないこと、車の騒音、大気汚染などに対して不満を感じている人が少なくない。
- ・ 環境軸の考え方に多くの住民が賛成している。
- ・ 沿道まちづくり会議やボランティアに参加する意志のある住民が多い。

【アンケート結果については下記のページをご覧ください】 モノレール12号参照

<http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/whats/monorail.html>

モデル地区3箇所における整備についての検討

新青梅街道の環境軸を形成していくため、「都市核」「みどりの拠点(山王森公園)」、「みどりの拠点(御伊勢の森公園)」の3地区を設定

みどりの拠点(山王森公園)「環境軸形成のための整備計画(案)」



3 今後の課題

平成18年度の調査委託の成果から、今後新青梅街道を環境軸として形成していくためには、新青梅街道の沿道空間のあり方について、総合的なビジョンが必要であり、沿道住民と整備のあり方について積極的に合意形成を進めていくことが必要であることがわかりました。

今後、市として、検討すべき課題としては以下のとおりです。

新青梅街道拡幅に伴う環境軸形成の手法検討

合意形成に向けた取り組みと環境軸の周知、PR

用途地域等の関連都市計画の検討

調査報告書をご覧になりたい方は

「多摩モノレール関連都市計画変更調査 新青梅街道沿道環境形成指針策定調査書(本編)」は都市整備部まちづくり課窓口で閲覧できます。

また、「概要版」は、下記のページに掲載してありますのでご覧ください。

<http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/whats/monorail.html>

「ものれーる」に対するご意見・ご感想を是非お寄せください。

Eメールでの投稿 m-murayama@city.musashimurayama.tokyo.jp